

「馬瀬里山ミュージアム」並びに「馬瀬里山ミュージアム運営連絡会議」設立趣旨

近年、馬瀬地域では地域全体で人口の少子高齢化と農業後継者の減少が進行し、地区間でその差が大きくなる傾向が強まっています。この結果、手入れが行き届かない里山林や耕作放棄地、空き家が増加し、野生鳥獣被害の増加、景観や生活環境の悪化の要因となつて大きな地域問題となっています。

このような状況が更に進行するとそれが誘因となつて更に人口の減少に結び付くなどして、今後五年ないし十年後にはいわゆる馬瀬地域の多くの地区が「限界集落」になる恐れがあります。

他方の、馬瀬地域は「日本で最も美しい村」連合に加盟し、里山の森林や清流、田園、集落が美しい里山景観と豊かな自然環境を形成し、馬瀬地域住民の大きな誇りとなつているとともに観光やグリーンツーリズムを推進するうえで欠かせない資源となっています。

これらのことから、馬瀬地域を今後とも「住んでよし」「訪れてよし」の地域として発展させてゆくためには、里山(集落や周辺の森林、農耕地)を適正に維持管理することが極めて重要です。

里山を適正に維持管理するためには、長期間にわたつて資金や労力を確保することが不可欠です。このための仕組みづくりとして、平成二五年度において「岐阜県立森林文化アカデミー」に委託し馬瀬西村地区をモデル地区に選んで実施した調査から、西村地区(その周辺地区を含む)を野外の博物館(ミュージアム)に見立てて、地区の景観や伝統文化、農林業の営み・日常の生活のありのままの姿を教育の場、展示の場、おもてなしの場、滞在の場として活かし、交流人口の増加を図り、観光収入等に結び付け地域に還元することが可能と判断されました。

このため、今後の西村地区を始め広く馬瀬地域の里山の適正な維持管理と地域経済の振興に寄与できる「馬瀬里山ミュージアム」並びに「馬瀬里山ミュージアム運営連絡会議」を設立することを提案するものです。

平成二十六年五月二十二日